

米原歴史文化街道

米原市の歴史・文化財を歩く 178

朝妻沖湖底遺跡の調査と新たな取り組み

これまでの調査

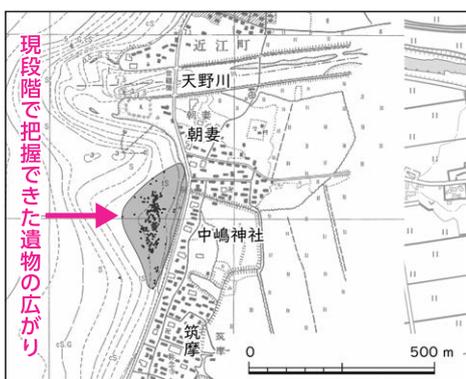
朝妻沖湖底遺跡は、古代から中世に栄えた朝妻湊の一部と考えられる遺跡です。当遺跡の水中考古学調査は、豊橋市美術博物館学芸員の中川 永氏と米原市が主体となり、滋賀県立大学考古学研究室が協力して実施しています。調査は、遺跡の範囲や性格の把握を目的に、昨年度までに約14160㎡の分布調査を完了し、遺物は湖岸から沖合約120m、水深0.4～2.4mの範囲から、平安～鎌倉時代にかけてのものから、数多く確認されています。

令和6年度の調査

今年度は、遺跡の北端部および西端部の把握を目的に、約8250㎡の調査を実施しました。確認された主な遺物には、尾張地方(愛知県西部)で生産された中世陶器の碗や瓦などがあります。また、朝妻樋門北西の沖合40～65mの地点で遺物が確認されなくなることが判明し、これが湖底の三角状地形の北裾部に当たることから、この地形の境が遺跡の北端部と重なる可能性が高まりました。

最先端機器を用いた新たな取り組み

今年度から、地質学を専門とする京都大学防災研究所の山崎 新太郎准教授らによって湖底地形の測量調査が始まりました。これは琵琶湖が全国屈指の水中遺跡の集中地帯であり、その成因の1つに地すべりを伴う地震被害が予想されるためです。今年度は、湖底地形を広域で探査するサイドスキャンソナーや、湖底の地下構造を把握するサブボトムプロファイラーなどの装置を用いました。今後のデータ解析や、水中考古学調査との比較検討により、遺跡の形成メカニズムの解明が期待されます。



遺跡の活用に向けた取り組み

朝妻沖湖底遺跡については、今年度、近江 俊秀氏(文化庁主任文化財調査官)、梶原 義実氏(名古屋大学大学院人文科学研究科教授)、太田 浩司氏(淡海歴史文化財研究所所長)をお招きしシンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、さまざまな視点から米原市周辺の歴史環境について評価が進められ、水中考古学の成果から、従来詳細が不明であった朝妻湊の実態に迫ったことが高く評価されました。

今後の調査と展望

これまで10年近くに渡り続けられてきた朝妻沖湖底遺跡の調査ですが、遺跡の範囲を確定するという当初の目的は、令和7年度には達成できると考えています。一方で遺跡の成因については、朝妻湊に由来すると考えられる遺物がなぜ沖合まで広がっているのかなど課題が残されています。今年度から始まった地形探査や最先端の地質学研究との共同研究は、そうした課題を解決する手法として期待されます。

豊橋市美術博物館 中川 永
京都大学防災研究所 山崎 新太郎
米原市生涯学習課 石田 雄士

消費生活相談コーナー

子どもがオンラインゲームで無断課金

子どもがオンラインゲームで高額の課金をしてしまった。



消費生活相談員より一言

- 未成年者による課金トラブルを防ぐため、
- ①親の端末を使わせる時は親のアカウントから必ずログオフしましょう。
 - ②子ども専用端末の場合も、親のアカウントで「ペアレンタルコントロール機能」を設定しましょう。
 - ③家族で話し合いの時間や金額等のルールを決めましょう。

「おかしいな」と思ったら、一人で悩まず、まずは消費生活相談窓口へご相談ください。

市 消費生活相談窓口(本庁舎)
相談専用 ☎53-5110
(受付) 平日 9時30分～16時

米原警察署情報

米原警察署 ☎52-0110

1月10日は110番の日です!

事件・事故にあったり、見たりしたら、すぐに110番!

※110番は事件・事故専用の緊急通報電話です。警察への要望・相談等は警察署もしくは#9110に電話してください。
※移動中の携帯電話での通話は非常に危険です。車両の運転中は安全な場所に停車、歩行中は立ち止まってから通報をお願いします。

110番の適正利用へのご協力をお願いします



令和6年市内交通事故数(11月末時点)

件数 54件(0件) 死者 1人(-1人)
傷者 76人(+4人) ※()内は前年比